

シリーズ第3回 中土佐町 「重要文化的景観」申出区域

清流通信読者の皆様こんにちは。今月の『重要文化的景観』の各市町レポートは中土佐町からです。



↑ 榎野々集落と長野沈下橋

中土佐町は、鯉の一本釣りの基地である旧中土佐町地域と、「日本最後の清流」と言われている四万十川上流域の旧大野見村地域に分かれます。良質の木材生産地である大野見は海に比較的近く、川の利用により集約された木材を陸路で搬出することに適していたため、久礼港は高岡郡で唯一の木材搬出港として栄えた港でもありました。

今回申出区域は、堰・用水路・農地等に開拓の歴史が残された農山村集落を有する「四万十川上流区域」、自然豊かな島ノ川渓谷と天然林の残る国有林が形成する「島ノ川国有林区域」を、来年度に申出区域として茶園と石積の田園が残る「萩中川地区」、林業で栄えた集落を有す「下川地区」、木材の搬出港であった「久礼港区域」を予定しています。

二つの集落を結ぶ久万秋沈下橋↓



●「四万十川上流区域」

中土佐町大野見地域は、全長 196km の四万十川源流点から 18 ~ 37km 地点に位置します。上流域ではまれな海拔 300m の台地に水田が広がる農業集落地域でもあります。「川は近いが水は遠い」と言われたこの地域は、川からあちこちに水路を張り巡らし生活用水や農業用水として利用してきましたが、川は村を二分し、両側に開けた集落や農地の往来に苦難してきました。また、四万十川は暴れ川と言われ、人々は水害に悩まされ、板橋や滑車を経て、増水にも強い沈下橋が設置されるようになりました。この沈下橋は、今では人々の生活と共に地域の自然と調和した多様な景観を形作り四万十川を代表する文化的財産になってきています。これらのことから、四万十川本流最上流に掛かる「高樋沈下橋」、大野見地区中心部を繋ぐ「久万秋沈下橋」、農地往来の主要道である「長野沈下橋」の周辺を重要構成要素に指定しています。



↑ 旧堰の上に作られた高樋沈下橋

●「島ノ川国有林区域」

四季折々の風情と清流、動植物と自然豊かな島ノ川渓谷（島の川川）周辺は、ボランティアによる広葉樹を植樹する活動が 10 年ほど前から続けられている区域です。また、良質で豊富な森林と天然林が残る国有林は、計画的な施業と地域との調和が取られ天然林の保護や回廊域の複層林化を中心に自然保養区域としても位置付けられています。

トビックス

四万十癒しの旅 in 大野見



↑ 本流最上流にある高樋沈下橋付近

10月4日川崎市環境関連会社32名様一行が、前日の久礼漁師町に続き、中土佐町大野見を訪れ四万十川上流域を探索しました。一行はまず四万十民俗資料館において、四万十の恵みと脅威についてのパネル等を見学。その後、奈路橋に立ち「この橋は昭和38年の台風で越流しました。」という説明を聞きました。穏やかに流れる四万十川。しかし暴れ川という側面を垣間見て一同は驚きの様子でした。そして、沈下橋の原型『板橋』を見たあとは、本流の1番目の沈下橋、高樋沈下橋に降り立ちました。「四万十川の貴重で素朴な自然がそのまま残されておりすばらしい。」「周りに何もなく、観光地化されていないのが良い。」などの感想が聞かれました。お昼には四万十川の河原で天然鮎に舌鼓をうち、秋深まる大野見路を後にしました。